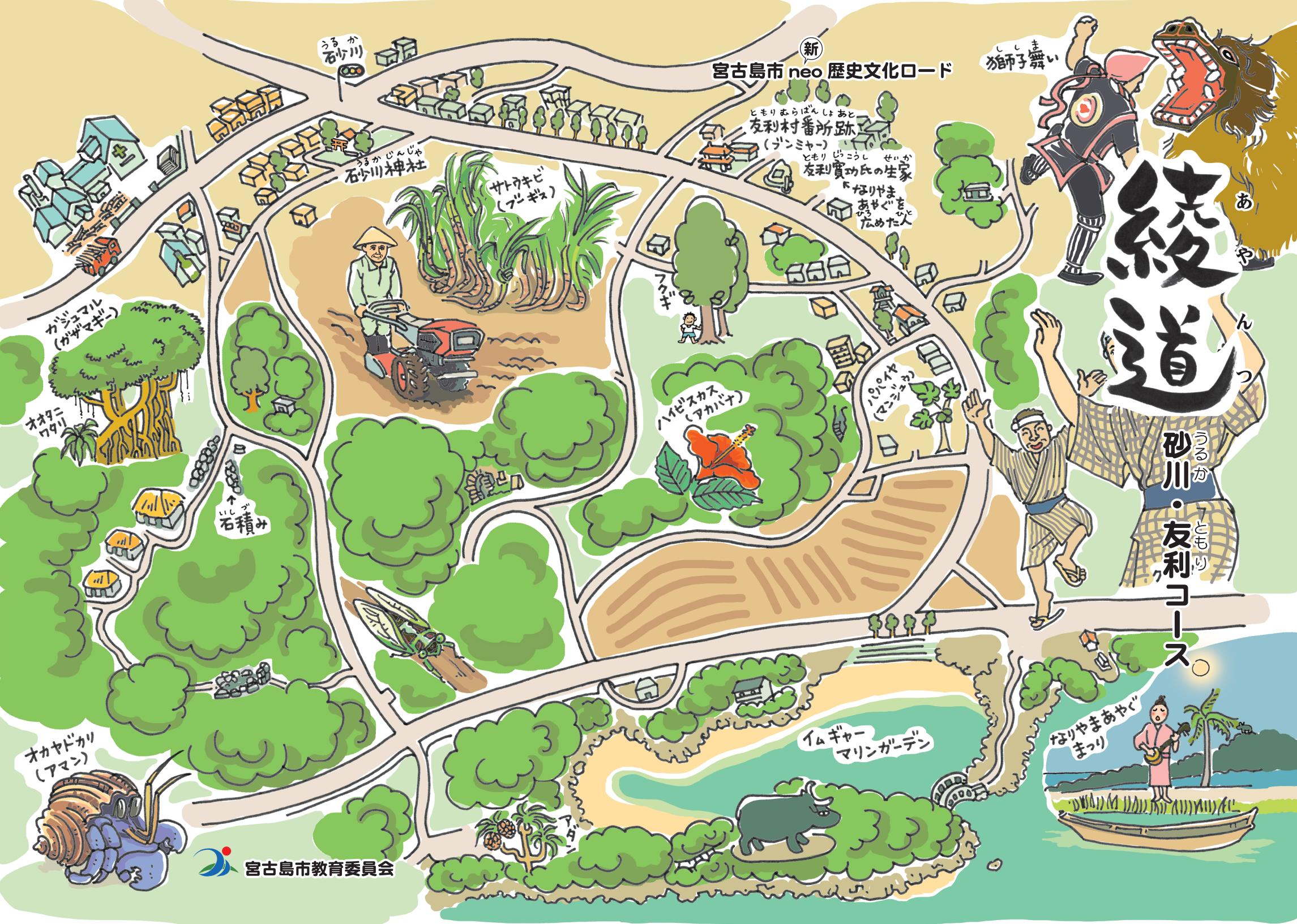


新 宮古島市 neo 歴史文化ロード



紋道

あやんつ

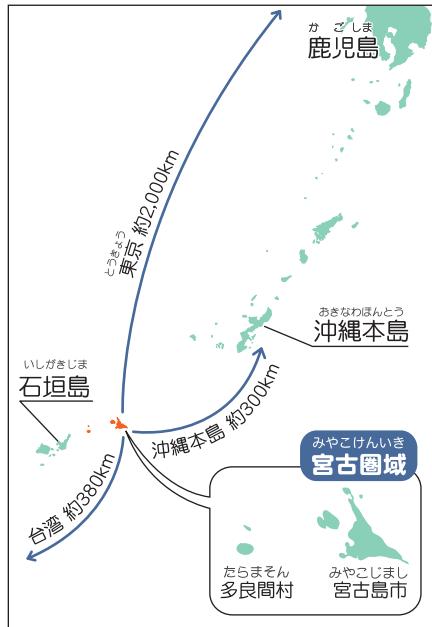
おもむき みち みやこじま
「趣のある道」のことを、宮古島のことばで「あやんつ」といいます

みやこじまし いちめんせき
宮古島市の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

総面積は204km²、人口約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

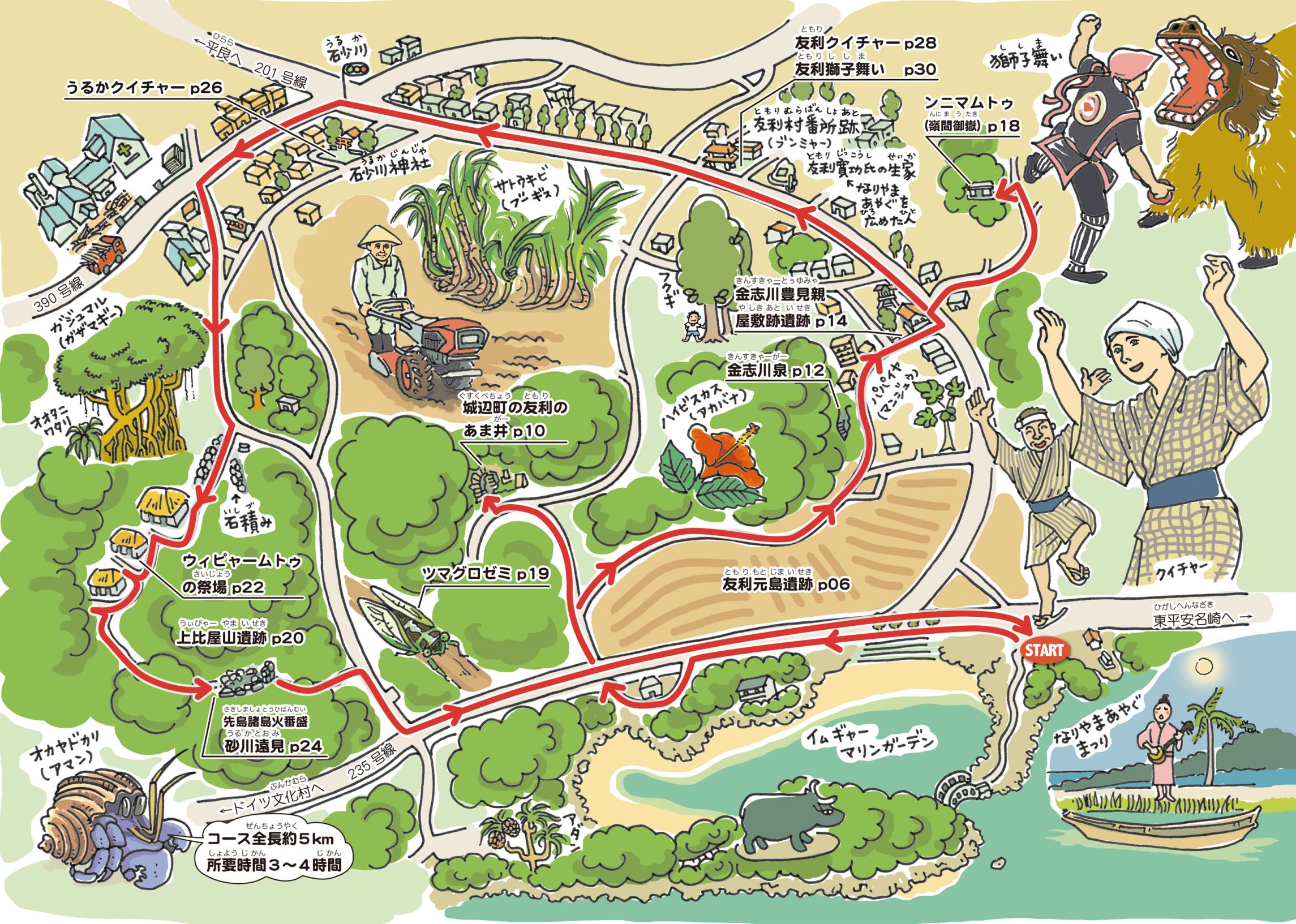
島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。





綾道（砂川・友利コース）

さんさく マップ 散策map	04
ともり もとじま いせき 友利元島遺跡 埋蔵文化財	06
けんりゅうさんじゆうろくねんおおなみ 乾隆三十六年大波.....	07
ねんどはっくつちようさほうこく 2012年度発掘調査報告.....	08
がいせい おの シャコ貝製の斧／カムィヤキってなあに？.....	09
ぐくくへちょう ともり がー 城辺町の友利のあま井 県指定有形民俗文化財	10
う がー 「降り井」はどうやってできたの？.....	11
きんすきゃーがー し し でいしせき 金志川泉 市指定史跡	12
ようせいきゅうき 「雍正旧記」ってなあに？.....	13
きんすきーとうゆみややしきあといせき 金志川豊見親屋敷跡遺跡 埋蔵文化財	14
のぱるだけ へん 野原岳の変.....	15
ねんどはっくつちようさほうこく 2012年度発掘調査報告.....	16
ちゅうごくさんとうじき 中国産陶磁器のいろいろ.....	17
んにまうたき はいしょ ンニマムトウ（嶺間御獄） 挝所	18
し し でいてんねんきねんぶつどうふつ ツマグロゼミ 市指定天然記念物（動物）	19
ういびゃー やまいせき 上比屋山遺跡 県指定史跡	20
せつ わこう さまざまな説／「倭寇」ってなあに？.....	21
さいじょう けんしていゆうけいみんぞくぶんかざい ワイピャームトゥの祭場 県指定有形民俗文化財	22
ゆらい 「ナーバイ」の由来.....	23
さきしましょとうひばんむい うるかとおみ 先島諸島火番盛 砂川遠見（トウンカイフツイス） 国指定史跡	24
かくちひばんむい 各地の火番盛.....	25
し し でいむけいみんぞくぶんかざい うるかクイチャー 市指定無形民俗文化財	26
「クイチャー」ってなあに？.....	27
ともり し し でいむけいみんぞくぶんかざい 友利クイチャー 市指定無形民俗文化財	28
にんとうぜい クイチャーと人頭税.....	29
ともりししま し し でいむけいみんぞくぶんかざい 友利獅子舞い 市指定無形民俗文化財	30
ぶんかざい たいけいづ 文化財の体系図	32



とも り もと じま い せき
友利元島遺跡



とも り もと じま い せき せい き こう はん しゅうらく
友利元島遺跡は、13世紀から18世紀後半にかけての集落遺跡
みや こ じま みなみかいがん いったい おお つ なみ けりゅうさん
です。宮古島の南海岸一帯の集落は、1771年の大津波（乾隆三
じゅうろくねん おおなみ かいめつ てき ひ がい う
十六年大波）によって壊滅的な被害を受けました。1987年、
おこな はくくつちょうさ はこ すな こ いし きん
1995年に行われた発掘調査では、津波が運んだ砂や小石が、近
せい せいかつ あと おお じょうたい はっけん とう じ
世の生活の跡を覆った状態で発見されており、津波によって当時
わ さ
の集落が大きな被害を受けたことが分かっています。その後、集
せん ちか げん ざい い ち い どう
落は、海岸線近くから現在の位置に移動しました。遺跡の一帯で
ちゅうごくさん とう じ き ど き さん ざい
は、現在も中国産の陶磁器や土器などが散在しています。

乾隆三十六年大波

ねんきゅううれき 1771年旧暦3月10日午前8時
ごろ 頃、マグニチュード7.6の大地震が発
せい 生しました。震源は「石垣島南沖」
あき もしくは「石垣島と多良間島の中間
おき 沖」ではないかとされています。

ふんご その30分後には、宮古・八重山諸
とう 島へ大津波が来襲。津波は3度押し
おおつ どう よせたといいます。

けんりゅう さんじゅうろく ねん おお この大津波は「乾隆三十六年大
なみ めいわ おおつ なみ 波」、いわゆる「明和の大津波」と
いわれています。

宮国・新里・砂川・友利地域の被害状況

つなみ たか 津波の高さ	じょうしゃく 3丈5尺 (10.6m) 程
せんかい こすう 全戸数	591戸
し しゃ 死者	2,042人
ひやくしょう (百姓2,015人/役人5人/他村人22人)	
ひょうりゅうせいぞんしゃ 漂流生存者 (男12人/女4人)	16人

おとしいがき 御問合書より要約 ※被災前の戸数などは分かっていない



しもじまえやま 下地前山にある石碑
おおなみ なが つ いたい 大津波で流れ着いた遺体
とむら いたい を吊つるために建てられた
せきひ 石碑には「乾隆三十
六年三月十日大波 宮国
新里 砂川 友利」と刻まれ
ている。

おとしいがき 御問合書



宮古の古文書『思明氏家譜』の付属

ぶんしょ おとしいがき 文書である『御問合書 (1807)』に
とうじ ようす は、当時の地震の様子や津波の来襲、
かくしゅううらぐ ひがいじょうきょう しる 各集落の被害状況が記されており、
しょうとう 宮古諸島で、あわせて2,461人の死
しゃで しる 者が出たと記されています (琉球王
こくせいし りょうきゅうおう 国の正史『球陽』では、死者は2,548
名となっている)。



ともりもとじまいせき
友利元島遺跡

ねんどはつくつちょうさほうこく
2012年度発掘調査報告

2012年12月から2013年1月にかけて実施された友利元島遺跡の発掘調査では、これまでの発掘調査にはない新しい発見がふたつありました。

ひとつめは、990～860年前に埋葬された人骨が発見されたことです。埋葬された人骨は、2体検出されています。1体目の第1号人骨は、両足を折り曲げた状態で埋葬されていました。そして、2体目の第2号人骨は、鹿児島県の徳之島で焼かれた完全な形のカムイヤキが一緒に添えられており、県内でも数少ない発見です。



ようす
発掘調査の様子

ふたつめは、無土器期と言われる、土器が使われなかった時代の生活の跡を残す層が確認されたことです。この層からは、シャコ貝を素材とした斧が15点出土しており、その当時の食料である、イノシシや魚の骨、貝なども出土しています。この層から出土した炭化物の年代測定を行ったところ、今から約1,400～1,250年前の値が得られています。



シャコ貝を素材とした斧（貝斧）

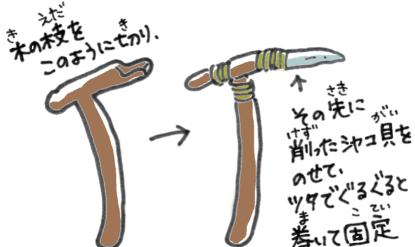
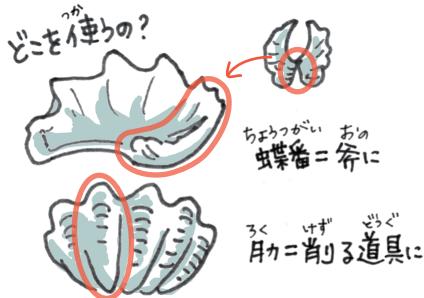


はっけん
発見された人骨

がいせい おの シャコ貝製の斧

そざい シャコ貝を素材とした斧のことを貝斧といいます。貝斧は、日本国内では、宮古・八重山諸島の遺跡からのみ出土するもので、海外ではフィリピンや太平洋諸島に同じものがあります。

おも 主にシャコ貝の蝶番の部分を利用しますが、肋の部分を使うタイプもみられます。生活の様子などから、主に舟を作るための道具だったと考えられています。



カムィヤキってなあに？

せいき カムィヤキとは、11～13世紀にかけて、鹿児島県の徳之島で焼かれた焼物です。徳之島では、多くの窯跡も発見されており、11世紀頃から、奄美から宮古・八重山諸島まで、交易品として広く流通しました。2012年度の友利元島遺跡の発掘調査では、宮古島市で初めて完全な形のカムィヤキが人骨と共に出土しています。



友利元島遺跡出土のカムィヤキ

ぐすく べ ちょうともり がー¹
城辺町の友利のあま井



ぐすく べ あざ うる か
あま井は、城辺字砂川と字
ともり きょうかい どう くつ せい せん う
友利の境界にある洞窟井泉(降
り井)です。降り口から湧き口
までの深さは約20mで規模も
おお げん ざい すいりょう ゆた
大きく、現在でも水量は豊か
しょう わ
です。1965(昭和40)年に城辺
じょうすい どう ふきゅう
で上水道が普及するまでは、
この井泉が飲み水を始め、生
かつ いとな うえ き ちよう みず し げん
活を営む上の貴重な水資源で
した。

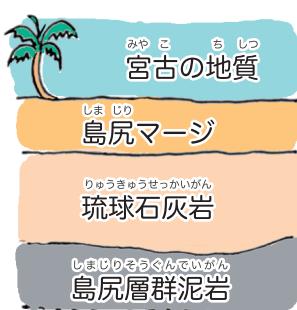
みずく じょせい こ につか
水汲みは女性や子どもの日課で、あま井に降りる石段や側面の
いわ 岩には、すり減ってしまった部分が見られ、水を得るために過酷
く おこな ^ とう じ く ろう
な水汲みを行った当時の苦労がしのばれます。

このあま井については、『雍正旧記(1727)』に掘削年数は不
明と記されており、いつ頃造られたのかはわかりませんが、友
りうるかしんざと かくもとじまきゅうしゅうらく じゅうみん
利・砂川・新里の各元島(旧集落)の住民が、1771年の「明和の
おおつなみ いぜん げんざい いどう あと なが りよう
大津波」以前から、現在の集落へ移動した後も、長く利用しまし
た。宮古における地域住民の水利用のあり方や、その歴史的変遷
し うえ か ち たか
を知る上でも価値の高い井泉です。

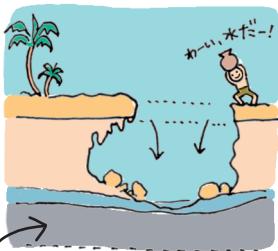
上から見た図



「降り井」はどうやってできたの？



水に溶けやすい琉球石灰岩は雨などで浸食され、地中に空洞ができる



この層はほとんど水を通してないので
石灰岩を浸透した水がたまる

浸食が進み、やがて地表が崩れ、陥没ドリーネという窪地ができる



きん す きやー がー
金志川泉



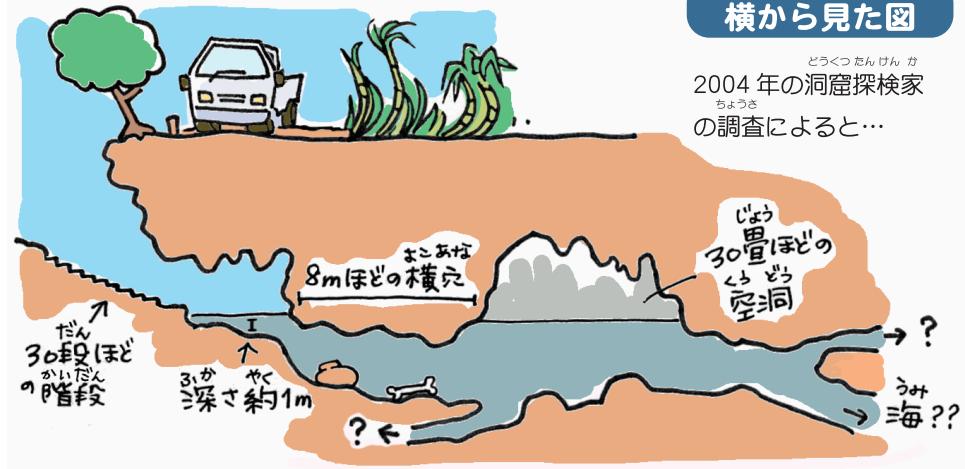
金志川泉は、金志川豊見親の屋敷跡から150mほど西側にある洞泉です。開口部から水の溜まっている水壺まで約30段の階段が設けられています。水壺は広くほぼ円形で、水深は1mほどです。この泉は、潮の干満によって海水が入り込むので、後年は飲み水としては利用されなかったようです。

『雍正旧記(1727)』には『掘年数不相知』と記されており、いつ頃造られたかは分かりません。

『宮古・八重山両島絵図帳(1647)』には、おろか(砂川)間切にきんす川村の名があり、また、『仲宗根豊見親八重山入のあやご』に『金志川の豊見親金盛とよ／城なぎ弟なきたつよ』と謡われていることから、金志川泉は、金志川村及び金志川豊見親との関連を想像させる貴重な洞泉です。

よこ 横から見た図

どうくつたんけんか
2004年洞窟探検家
の調査によると…

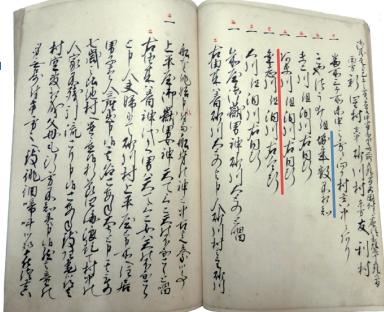


「雍正旧記」ってなあに？

ようせいきゅうき
『雍正旧記(1727)』は、宮古で最も古
みやこ もっと ふる
いといわれている文献『宮古旧記類』のひ
きゅうきるい
とつです。旧記類は他に、

うたき ゆらいき
『御嶽由来記(1705)』
きじ
『宮古島記事(1752)』
しつぎ
『宮古島記事仕次(1748)』
さいばんき
『宮古島在番記(1780)』
し
などが知られています。

とく
特に『御嶽由来記』『雍正旧記』『宮古島
りゅうきゅうゆうふ れきしょ へんしゅう じ
記事』は、琉球王府の歴史書を編集する事
ぎょう しりょう ほうこく おも
業の資料として報告されたもので、主な
ないよう かくう たきめい さいしん ゆ
内容は、宮古の各御嶽名・祭神とその由
らい むらばんしょ しょざいち せいせん めいしよう くっさく
來、各村番所の所在地、井泉の名称・掘削
しま さんぶつ かよう しる
年、島の産物、歌謡などについて記されて
います。



雍正旧記

このページには「掘年数不相知(いつ
ほ ふめい さんすきやがー
掘られたか不明)」として、「金志川泉
みぎ おな しる
も右に同じ」と記されている。



きん す きやー とうゆみや や しぎ あと い せき
金志川豊見親屋敷跡遺跡



きん す きやー とうゆみや や しぎ あと い せき
金志川豊見親屋敷跡遺跡は、15~16世紀の城辺(現在の城辺地
いき ゆうりょくしゃ 域)の有力者であった金志川豊見親の屋敷があったと考えられて
いる遺跡です。現在の金志川御獄一帯が、遺跡の範囲となっており、『雍正旧記(1727)』に記されている金志川城も同じ場所に
あったと考えられています。

『雍正旧記』によれば、金志川城の規模は長さ17間(30.6m)、横16間(28.8m)で、門は卯辰(東南東)の方向にあったと記されています。現在はその跡を示すような石積みは残っていませんが、金志川御獄一帯には、貝類や土器、白磁・青磁・青花といった陶磁器類などが散在しています。

※1間は約1.8mとしています

の ぱるだけ へん 野原岳の変

むかし、友利に金志川金盛と那喜太知という兄弟がいました。ふたりは、宮古の支配者である仲宗根豊見親が、石垣島や与那国島へ遠征するときに従軍して多くの手柄をたてるなど、知恵と勇気を兼ね備えた兄弟でした。しかし、兄の金盛は、与那国島の遠征の帰りに多良間島で亡くなってしまいました。そこで弟の那喜太知が城辺を治める首長となり、金志川豊見親といわれ、みんなに慕われました。

仲宗根豊見親の長男である仲屋金盛豊見親の家臣の中屋勢頭は、そんな金志川豊見親の威勢をねたみ、仲屋金盛豊見親に、「金志川豊見親は、あなたをないがしろにし、反乱を起こそうとたくらんでおります。」と言ひ、金志川豊見親へは、「仲屋金盛豊見親は、最近あなたのことを疑っています。」と、嘘をつきました。

だまされた仲屋金盛豊見親は、金志川豊見親を殺してしまおうと、宮古島の中央付近にある野原岳で宴を催し、そこに金志川豊見親を誘いました。一方、金志川豊見親は、自分が争いを起こすつもりがないことを伝

えるため、宴へとむかいました。

宴もたけなわになったころ、仲屋金盛豊見親が盃を投げ捨て、「者ども出でよ！」と叫ぶと、隠れていた兵が一斉に現れました。金志川豊見親は、「私に異心がないことは太陽が照る如しである。過って後悔するでないぞ」と言いましたが、聞き入れられず、兵は剣を抜いて討ちかかりました。金志川豊見親は異心がないことを証明するために、崖から身を投げてしまいました。

その後、この事件を調べるために琉球王府から糾問使が来ることになりました。それを知った仲屋金盛豊見親は、自分の過ちを後悔し、自分をだました中屋勢頭を斬り殺した後に、自殺してしまいました。



きん す きやー とうゆみや や しき あと い せき

金志川豊見親屋敷跡遺跡

ねん ど はっくつちょうさ ほう こく
2012年度発掘調査報告

きん す きやー とうゆみや や しき あと
金志川豊見親屋敷跡は、これまで
ぐくべ ちようきょういくい いん かい
1995年(城辺町教育委員会)、2012
かい はっくつ
年(宮古島市教育委員会)の2回、発掘
ちようさ じっし
調査が実施されています。

う たき
2012年の発掘調査は、金志川御嶽
ない おこな
内で調査を行いました。この発掘調
げん ざい ちひょうめん やく
査では、現在の地表面から約20cmほ
ほ さ たてもの き ぱん りゅうぎゅう
ど掘り下げる、建物の基盤の琉球
せつ かい がん たつ
石灰岩に達しましたが、屋敷跡を
しめ かく にん
はっきりと示すようなものは確認す
ることができませんでした。しかし
しょうりょう どき
少量ではありますが、土器や15~16
せい き
世紀につくられた中国産陶磁器(青
じ せい か しゅつど
磁、青花)などが出土しています。

いつ ぼう
一方、1995年に城辺町教育委員会

おお
が実施した発掘調査では、多くの中
はく じ
国産陶磁器(白磁、青磁、青花、褐釉
とう じ しょくりょう かんが
陶器)が出土し、当時の食料と考えら
れる動物の骨や貝類も多くみられます。
どう ぶつ ほね かい るい
動物の骨で多いのは、ウシ、ブ
タ(もしくはイノシシ)の骨で、ウマも
少量出土しています。このウシの骨
ねん だい そくてい
の年代測定を行ったところ、今から
あたい え
約500~450年前の年代の値が得られ
ています。

はっくつちょうさ よう す
発掘調査の様子



ちゅうごくさんとうじき 中国産陶磁器のいろいろ

いせき　遺跡からは、多くの青磁、白磁、青花、褐釉陶器といった、中国で焼かれた
あお　陶磁器が出土します。これら陶磁器は、時代によって器の形や文様が異な
せいじ　り、遺跡の年代を示す重要な資料となります。

白磁「玉縁口縁碗」

12世紀頃



白磁「ピロースクタイプII」

13世紀頃～14世紀前半



青磁「無鎬蓮弁文碗」

15世紀前半



12世紀

13世紀

14世紀

15世紀

16世紀

17世紀

青磁「雷文帯碗」

15世紀



青磁「細蓮弁文碗」

15世紀～16世紀



青花「外反口縁皿」

15世紀後半



世紀って？



ンニマムトウ (嶺間御嶽)



んにまうたき まつ
嶺間御嶽に祀られて

いる神は、「あまれふ
とうまいしゅう だんじょしん
ら泊主」という男女神
おとこ おんな
(男と女のふたりの神)
で、航海安全の神とし
ぐすくなぎ むら
て、城辺の4つの村が

すうはい うたきゆらいき しる
崇拝していたと『御嶽由来記(1705)』に記されてあります。

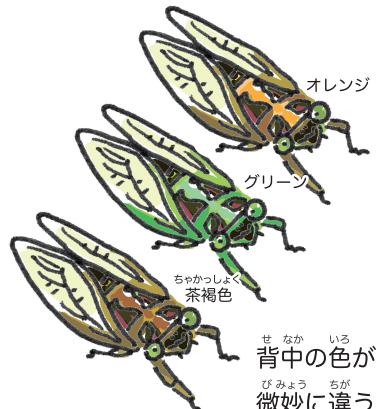
由来記には、『昔、友利村の後ろにあるあまれ山の麓に戸数わ
ずかな村があった。ある夜、突然の津波ですべて流され、ただひ
とり生き残った大津かさという女は、嶺間山の上に小屋を建て、
ひとりで暮らした。ある時、東平安名崎の近くの宮度浜に、大和
の難破船が流れ着き、助かった男が大津かさと巡り会い、夫婦と
なった。ふたりは子孫に恵まれ、
あまれ村という村ができた。

しかし、彼らの住んでいた嶺間
山もあまれ村も、どのあたりで
あったかは定かではない』と記さ
れています。



ツマグロゼミ

Nipponosemia terminalis (MATSUMURA 1913)



ツマグロゼミは、中国、台湾、八重山諸島、宮古島に分布し、
宮古島を北限とします。宮古島では城辺地区砂川・友利集落の一
部と、上野地区新里集落のイスノキという木に生息しています。
羽の先端部分に暗い色の模様があり、頭を下にしてとまる習性が
あります。5月下旬～6月下旬に発生し、5時半頃～19時半頃
までシーツ、シーツと鳴きます。方言で「ヌービスガーラ」「ヌ
スピィガーラ」と呼ばれています。生育木のイスノキが減少傾向
にあることから、1996年に上野
村役場により「ツマグロゼミ増殖
施設」が新里に建てられ、植林や
増殖事業を行なっています。



うい びやー やま い せき
上比屋山遺跡

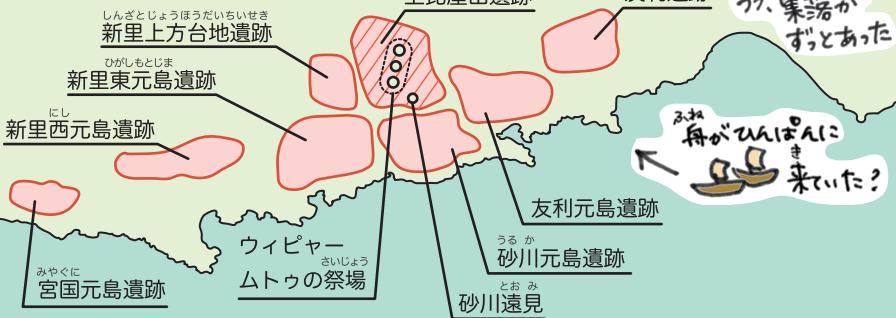


うる か しゅうらく みなみ せい き い せき たか りゅうきゅうせつ
砂川集落の南にある14~15世紀の遺跡で、高さ40mの琉球石
かいがんきゅうりょう みなみがわ もとじま ひろ あと
灰岩丘陵にあります。南側の砂川元島遺跡とあわせて広い集落跡
けいせい を形成しています。

みや こ しき ど き せい じ おぎ なわ せい とう き さん
この遺跡からは、宮古式土器や、青磁、沖縄製陶器、タイ産の
つぼ み なか おお 壺などが見つかっています。その中でも、とくに青磁が多く、そ
かいしゃく わ こう こん きよ ち せつ ぼう えき さか みなどまちせつ
の解釈については「倭寇の根拠地説」「貿易で栄えた港町説」
ぼう えき ちゅうけい き ち せつ 「貿易の中継基地説」などがあります。

ない けん し てい ゆう けい みん ぞく ぶん か ざい
また、遺跡内には、県指定有形民俗文化財「ウイピヤームトゥ
さいじょう くに し せき さきしましょ とう ひ ばん むい とお み ばんしょ
の祭場」や、国指定史跡「先島諸島火番盛(遠見番所)」のひとつ
うる か とお み である「砂川遠見(トウンカイフツイス)」があります。

さまざまな説



「倭寇」ってなあに？

「倭寇」とは、13～16世紀にかけて、朝鮮半島や中國大陸沿岸などで活動した、略奪行為や密貿易などを実行した海賊のことです。この倭寇の歴史を大きく見ると、前期と後期に分けることができ、上比屋山遺跡と同時期頃の15世紀までの前期倭寇は、主に瀬戸内海・北九州を本拠地とした日本人が多くいたと言われています。



さい じょう ウイピーマトゥの祭場



うる か しゅうらくなんぼう うい びやー やま い
砂川集落南方の上比屋山遺
せき こも ぎれい つか
跡にある、籠りの儀礼に使わ
れる「マイウェイピヤー」「ク
スウエイピヤー」「ウイウス」
とう か おく さいじょうない いし
の3棟の家屋で、祭場内の石

がき ほ ぞん
垣などとともに、よく保存されています。3棟とも側面が琉球石
かいがん いし づ
灰岩の石積みで、それぞれほぼ南向きです。

まつ かみ ゆ らい よう せい きゅうき
祀られている神についての由来は『雍正旧記(1727)』や『宮
き じ し つぎ しる
古島記事事次(1748)』に記されています。

おも ごようじ こも しつまつ
主な行事は、2月籠り、ナーパイ、8月籠り(節祭り)などがあ
そん らく かみ がみ そ せん
ります。宮古の村落の、神々や祖先などをまつる祭りを理解する
きわ き ちょう ぶん か さい
うえで極めて貴重な文化財です。

「ナーパイ」の由来

むかしむかし、「さあね」という男の子がいました。7歳の頃、大津波が村を襲い、人も家も残らず押し流されました。ひとり取り残されたさあねは、途方に暮れ、泣きながら村を歩きまわりました。それを見てかわいそうに思った喜佐真按司という人が、さあねを引き取って育ってくれました。さあねが15、6歳になった頃、浜を歩いていると、小舟に乗った美しい女が現れ、「私は、むまの按司といいます。あなたの妻になるために竜宮の神様から使わされて来ました」と言いました。さあねは驚き、「あなたと私とでは身分がちがうのでつりあいません」と浜に手をついて断りました。しかし「竜宮の神様が言うのだから遠慮はいりません。さあ、あなたの両親が住んでいた所へ案内してください」と言われ、さあねは仕方なく上平屋山へと連れて行きました。荒れ果てた地に家を建て、男7人女7人の子どもが生まれました。子どもたちが大きくなると、妻は「あなたを助けるために一緒に暮らしてきましたが、子どもたちも大きくなつたので竜宮へ帰ります。夫婦になってくれたお礼に、あなたを



かな
悲しませた津波が二度とこないよう、
津波除けの方法を教えます。3月初め
の酉の日に「たいく(ダンチクといふ
竹に似た植物)」を磯づたいに差し、
海と陸との境にしてください。そうす
れば、いつの世までも津波が襲うこと
はないでしょう」と言って、海へ入
り、見えなくなりました。

それから、村では旧暦の3月初めの
酉の日に、女性は「たいく」の棒を磯
に差し、男性は船漕ぎのまねをするよ
うになり、津波除けの神事「ナーパ
イ」が始まったということです。

『雍正旧記』より



さきしましょとうひばんむい
先島諸島火番盛

うる か とお み
「砂川遠見 (トゥンカイフツイス)」

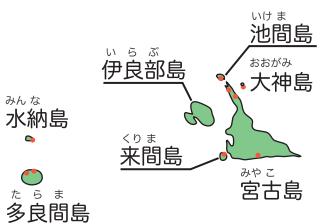
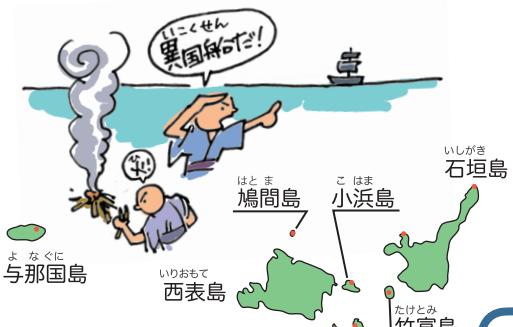


さきしましょとうひばんむい
先島諸島火番盛は、沖縄県先島諸島2市2町1村の、19か所
てんざい とおみばんしょぐん うるのか
に点在する遠見番所群で、砂川遠見はそのひとつです。上比屋
やまなんたんいち ほうけいじょうりゅうきゅうせっかいがん きりいしづとうざいやく
山の南端に位置し、方形状の琉球石灰岩の切石積みで、東西約
なんぼくとうへきたか きぼいこう
7m、南北約4.5m、東壁の高さ1mほどの規模の遺構です。遠
たいへいよういちぼう がんかうるかもとじまいせきともり
見台からは太平洋が一望でき、眼下には砂川元島遺跡と友利元
島遺跡を見ることができます。

えどばくふ さこくたいせいのか さつまはんしひい
火番盛は、1644年、江戸幕府の鎖国体制下で、薩摩藩が支配
する琉球王府によって設置されました。主に、異国船の到来を
かんしあかくち つたばんしょくらもとつう
監視し、のろしを上げて各地の火番盛を伝って番所や蔵元に通
ほうしきのうになれつとうさいせいたん
報し、琉球王府へ知らせる機能を担っていました。

たい
先島諸島は琉球列島の最西端に位置しており、火番盛は、対
がいかんけいさこくたいせいかんせいしめじゅうよう
外関係と鎖国体制の完成を示す遺跡として重要なものです。

かくち ひばんまい
各地の火番盛



うるかクイチャー



うるかクイチャーは、砂川部落独特のものです。昔、若い男女
が昼間の労働から解放されて、夜の一時を楽しく歌い踊る様子
と、踊りの輪の中から、好きな彼女の手を取り、袖を引いて連れ
出し、時の経つのも忘れて語り合う様子を歌ったものです。

踊りは、通常は男が歌って踊り、次に女が囁いて踊りますが、
全員が同時に歌い囁いて踊る場合や、歌と踊り・囁きと踊りとい
うように二組に分かれて交互に行う場合もあります。歌と手拍子
が揃い、威勢のいいうきうきした雰囲気をかもし出しています。

うるかクイチャー

(マキヤーブドウス°を踊ってから、クイチャーを踊る)

マキヤーブドゥス°(巻き踊り)

円になり、内側を向く。
歌にあわせて手拍子と足踏みをし、「サーササユイサガユイサ」で反時計回りにモーサー（カチャーシーのように手を左右に振りながら踊ること）を踊る

×4回



クイチャー

歌と三線にあわせて踊る



両手と右足を
後ろへ引く



両手を前に、
足を戻す



両手を1回
前後に振る

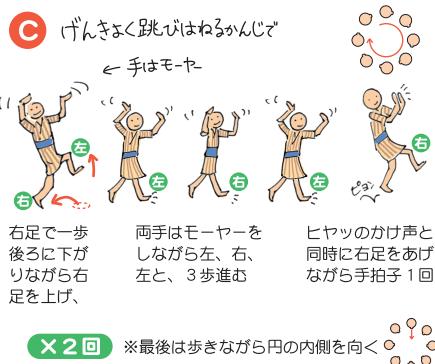
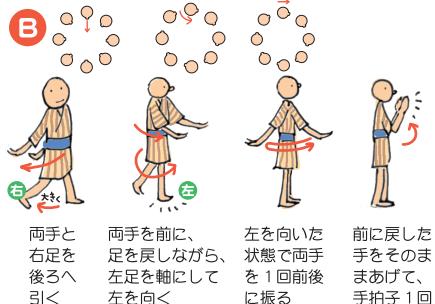


×4回

「クイチャー」ってなあに？

宮古全地域に古くから踊り継がれてきた踊りで、屋外で、みんなで円になって踊ります。クイチャーの意味は「声合わせ」や「神の魂を乞い願う」と言われており、願いが成就した時の喜びを老若男女が心をひとつにして表現していくます。クイチャーは、御嶽で豊作を祈り、雨乞いをするのが習わしでしたが、しかし、村の若い男女が寄り合い、歌い踊るようになりました。

※歌や踊りの長さは状況によって変わります



A B C を1曲終わるまで繰り返す

曲が代わり、

A ×2回 B C を男女交互に踊る

曲が終わったら A ×4回 を踊り、カンカンという鉦鼓（しょうこ）の音でマキヤーブドウス°に戻り、終了



とも り
友利クイチャー



むかし むら ばんしょ はた お じょ せい さん
昔、ブンミヤー(村番所)で機織りをさせられた女性たちは、珊瑚礁にあたってできる白波が上布の模様のように見えることから、白波は上布に、浜の砂は粟になりますようにという願いをこめて、クイチャーアーグ(歌)に仕上げたといいます。

ひる ま たいへん ろう どう かい ほう わか もの よる とお あつ
昼間の大変な労働から解放された若者たちは、夜、通りに集まり、面白おかしく男女の様子を歌い踊ったりしたそうです。

とも り おとこ おんな く べつ
友利のクイチャーは、男踊りと女踊りという区別はなく、男女が一緒に大地を踏み鳴らして踊る、威勢の良さが特徴です。

ともりクイチャー

※歌や踊りの長さは状況によって変わります

(マキヤードウス°を踊ってから、クイチャーを踊る)

マキヤードウス°(巻き踊り)

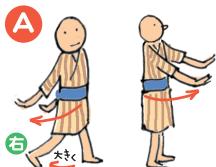
「サッサー」のかけ声で入場、円になり、内側を向く。歌にあわせて手拍子と足踏みをし、反時計回りにモーサー（カチャーシーのように手を左右に振りながら踊ること）を踊る



×2回

クイチャー

歌にあわせて踊る

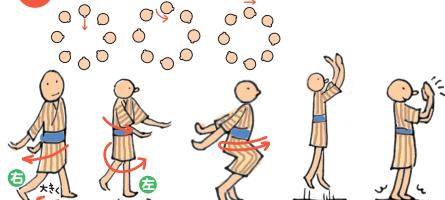


両手と右足を後ろへ引く
両手を前に、足を戻す
膝を曲げながら両手を1回前後に振る
前に戻した手をあげ手拍子1回

×4回



B



両手と右足を後ろへ引く
両手を前に、足を戻しながら、左足を軸にして左に向く
左を向いた状態で膝を曲げながら両手を1回前後に振る
膝を曲げた勢いでジャンプ。
手は前に着地と同時に手拍子1回

C



右足をぐいっとあげて、
あげた右足を後ろに引きながら左足を上げ、
上げた左足から、左、右、左と、
右足をぐいっとあげながら手拍子1回

×4回 ※4回目は手拍子で内の内側を向く

「クイチャー」と人頭税

人頭税とは、1600年頃から260年以上に渡って続いた苛酷な税です。
15～50歳に課せられ、男は粟・胡麻・綿花などの農作物、女は細い糸で織られた上布という織物を納めなければなりませんでした。この税は、全員に同じ税額を課したため、貧しい者や土地の少ない者にとって大変な税でした。税を払うためだけに働くような生活の中で、クイチャーは数少ない若者たちの楽しみでした。



ともりししま
友利獅子舞い



しし きげん
獅子の起源についてはっきりしていませんが、昔のことによく
し としよ はなし やく れきし
知るお年寄りの話によれば、約250年の歴史があるといいます。

えきびょう かじ かんばつ お
昔は疫病、火事、旱魃などが起こると、すべて悪霊の仕業であると捉え、村人たちは総出で三尺（約91cm）程の棒を持ち、獅子を先頭に、道端の石垣や草木を叩きながら、部落内の道を隅々まで廻ったと伝えられています。

さい がい はっせい なつ
1830年頃から災害の発生しやすい夏の8月頃に、魔除け、厄
ばら むびょうそくさい ごこく ほうじょう まつ ご
払い、無病息災、五穀豊穣の祭りとして、獅子舞いを一年越しに行うようになり、現在に伝えられています。

ともりししまま 友利獅子舞い

※踊りの長さは状況によって変わります



指笛でスタート、「サッサー」のかけ声で入場



マキヤーブドウス（足踏み手拍子、右回り×2回）を、鉦鼓（しょうこ）をならしながら踊り、最後にジャンプ



鉦鼓と笛、ホラの音に合わせてアラシャが獅子を起こす。獅子は叩かれるたびに口を大きく開けて体を揺らす

X5回



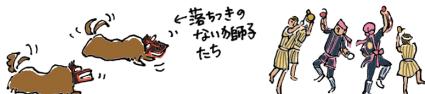
アラシャが振る玉を追いかける獅子

X2回



左右のアラシャが入れ替わると同時に、獅子がぐるんと1回転。その後、手に持っている玉を獅子の顔の前で振る

X2回



再び円になり、ジャンプをしてから**A**を踊る

もう一度獅子の頭を叩き、**B** **X1回** **C** **X2回**

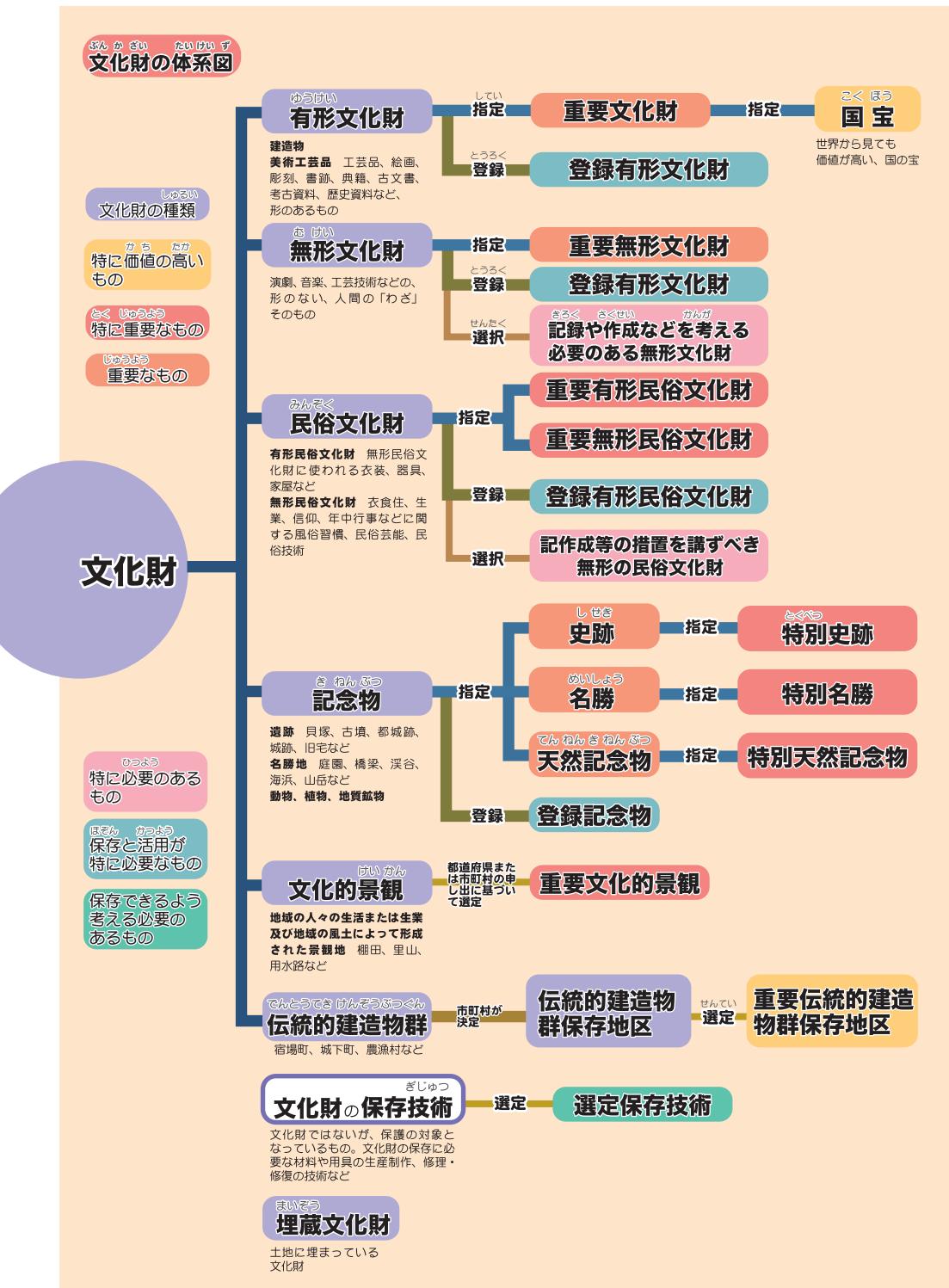


縄の先の玉を獅子にかませ、上下に縄を振りながら1回転



最後にもう一度円になって**A**を踊って終了





それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

かたち
形のあるもの
形のないもの

無形文化財

指定

重要文化財



豊見親墓(3基)
(とうみみやまか(3き))

国宝



治金丸 / 沖縄県
(じがねまる / おきなわけん)

登録有形文化財



旧西中共同製糖場煙突
(きゅうにしちゆうどうせいとうじょうじょうえんとつ)

民俗文化財

生活に関係したるもの

重要無形民俗文化財



宮古上布
(みやこじょうふ)

重要有形民俗文化財



ウイピヤームトゥ
の祭場(さいじょう)

重要無形民俗文化財



宮古島のパートトゥ

文化財

記念物

登録

文化的景観

ひとばん
人間と自然が
作ってきた景色

登録

登録記念物



旧仲宗根氏庭園
(きゅうなかそねしていん)

史跡

歴史上の名所

名勝



東平安名崎
(ひがしへんなさき)

特別史跡



吉野ケ里遺跡 / 佐賀県
(よしのがりいせき // さがけん)

特別名勝



識名園 / 沖縄県
(しきなえん)

天然記念物



オカヤドカリ

登録記念物



イリオモテヤマネコ

特別天然記念物



竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島
(たけとみじまののうそんしゅうらぐ)

伝統的建造物群 群保存地区

指定

伝統的 建造物群



重要伝統的建造物群保存地区

選定保存技術



苧麻糸手續み
(ちょまいとてうみ)

埋蔵文化財



今は平良行舎
の下に埋まっている
住屋遺跡
(すみやいせき)

わたし ぶんかざい
私たちの文化財です
たいせつ
大切にしましょう

ぶんかざい きょか むだん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



昔のことや、自然のこと、いろんな人の考え方など、
たくさんのことを考えてくれる大切なものです。



教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能なほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト



宮古島市neo歴史文化ロード 綾道(砂川・友利コース)

発行

初版 平成31年3月 改版 令和3年3月

編集・発行

宮古島市教育委員会

〒906-8501沖縄県宮古島市平良字西里1140番地

TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光

平成24年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業

